

館内見取り図

MUSÉE   
NATIONAL
ADRIEN  
DUBOUCHÉ
LIMOGES 

年代順の見学

2階製造

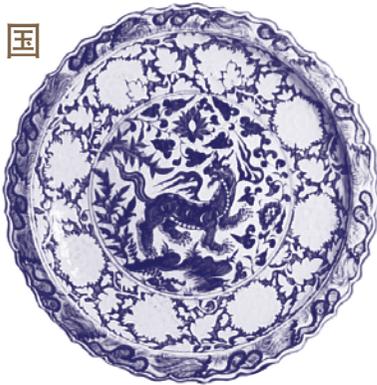


陶磁器の技術

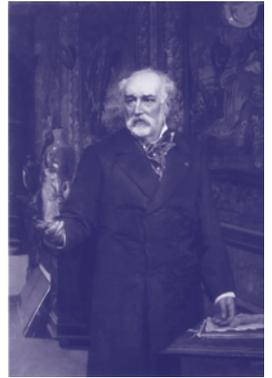


古代
中世
ルネ
サンス

中国



アドリアン・
デュブーシエ



17世紀
18世紀



カラー



・レベル1

古代から18世紀まで
のセラミック

・レベル2・

19世紀から現在に至るまでのセラミック



アール・ヌー



ヴァーアール・デコ



現代のセラミック



ガラス



リモージュ磁器
18世紀～19世紀

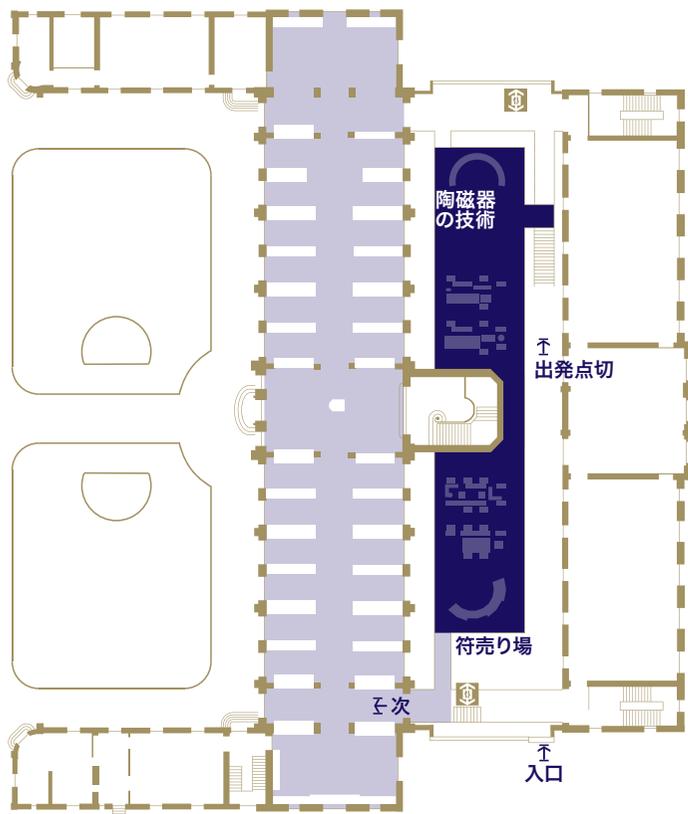
リモージュ磁器
20世紀～21世紀

・レベル3・

リモージュ磁器



中二階 製造



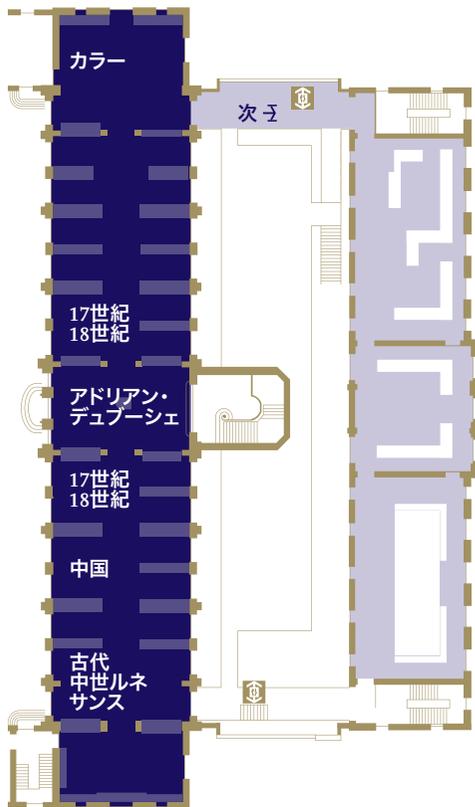
庭

博物館の敷地に入ると、『連続』と題されたジャン=ピエール・ヴィオとハギコ作品が来館者の目を引きます。これは、白いコンクリートを600個のほうろう引きセラミックのボウルで覆った碑で、2010年に博物館のために製作されました。庭では、ハビエル・ペレス作『泉』と題する磁器製の謎めいた人間の頭から、水が吹き上がっています。

2階

博物館の拡張工事で建てられた非常に明るい2階のフロアでは、セラミックの製造を4つの工程から解説しています。そこには、リモージュ焼きの歴史を物語る古い機械に加えて、最新の道具が並べられています。

古代から18世紀までのセラミック



レベルI

年代を追った見学のスタートは、1900年に落成した博物館の荘重な展示室から始まります。見事な装飾の中に、当時のままのショーケースが保存され、18世紀までの陶磁器の歴史の工程が解説されています。

古代、中世、ルネサンス

このセクションの最初は、考古学上の発掘調査で発見された、ギリシャのポトリー（陶器）や中世の釉薬陶器で始まります。続いて、ルネサンス時代の有名なイタリアのマヨリカ焼ファイアンスが紹介されています。

中国

中国は長い間、陶磁器を生産する唯一の国でした。中国陶磁器の歴史を物語る数々の傑作が紹介されていますが、とりわけ白地に青で描いた文様は有名です。また、日本の陶磁器のコレクションもあります。

アドリアン・デュブーシェ

歴史的な展示ギャラリーで、博物館の歴史をご覧ください。ここでは、当博物館の重要な庇護者であり、1865年～1881年まで館長を務めたアドリアン・デュブーシェを紹介しています。

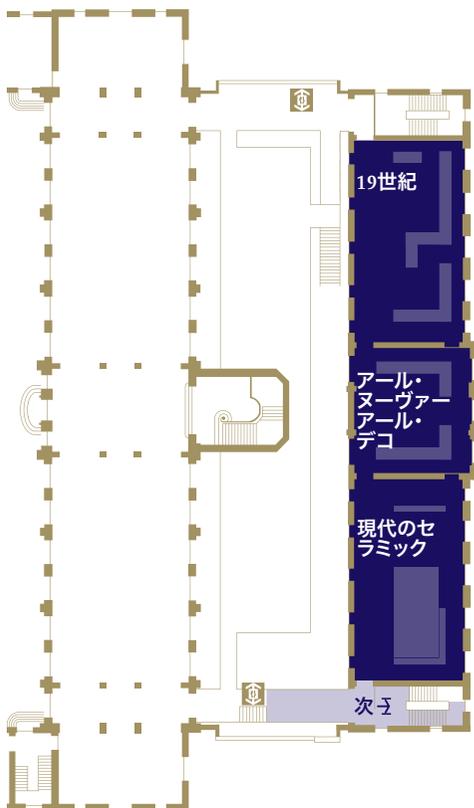
17世紀 - 18世紀

ファイアンスはヨーロッパで飛躍的に発展しました。各地で生産がさかんになり、オランダのデルフト、ルーアン、ヌヴェール、ムスティエ、ストラスブールなどがその中心都市として知られるようになりました。同時に、1710年から陶磁器を生産するようになったドイツでの製造（マイセンの製陶所）や、カオリンが採れない国々で作られる軟質磁器の製造と比較して紹介しています。このギャラリーの最後のショーケースでは、リムーザン地方のカオリン粘土を含む地層が発見されたことで、フランスでも硬質磁器が作れるようになったことが理解できます。

カラー

改築されたこの展示室では、色彩溢れる作品の数々が集められ、これまでと違った形でコレクションを楽しんでいただけます。

19世紀から現在に至るまでのセラミック



レベル2

アドリアン・デュブーシエは、陶磁器工業で働く能力をもったアーティストを養成しようと、装飾美術学校を創設しました。機能的な理由から、建物は歴史博物館に隣接されて建てられました。現在はひと続きとなっており、かつては教室だった3つのスペースに渡って、19世紀から現在に至るまでのコレクションが展示されています。テクニックを紹介した常設ギャラリーでは、学びながら充実した見学ができます。

19世紀

当時幅広くコレクションを集めていたアドリアン・デュブーシエの寄贈により、博物館は19世紀の極めて貴重なコレクションを保有しています。年代順の展示によって、ヨーロッパ装飾美術の潮流の中の陶磁器の変遷、すなわち新古典主義、ロマン主義、東洋趣味、日本趣味、印象主義等を知ることができます。

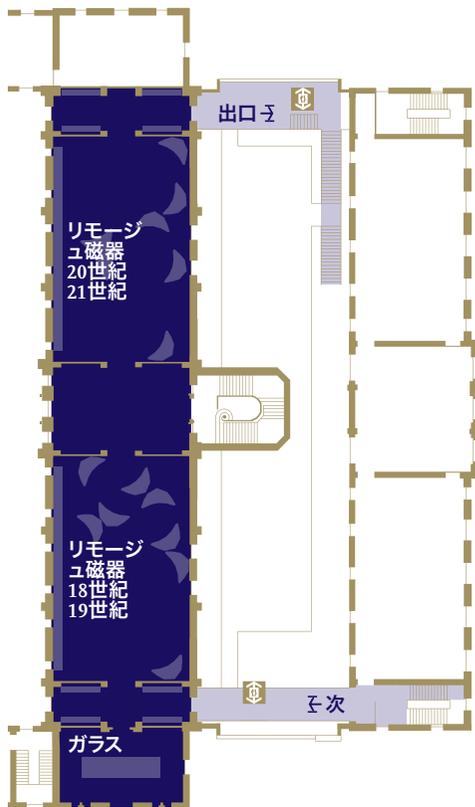
アール・ヌーヴアー、アール・デコ

アール・ヌーヴアーは20世紀初頭に流行しました。エクトール・ギマルを象徴する作品を中心に、この時代の審美観を反映した陶磁器が展示されています。この流れに対抗するように生まれたアール・デコは、1925年に開催された「パリ万国装飾美術博覧会」（略称をアール・デコ博）にちなんでつけられ、フォルムやデザインに大きな革新をもたらしました。

現代のセラミック

ピカソがヴァロリスで制作した皿を始め、ヴィム・デルボア作の磁器による『サッカーゴール』、エットレ・ソットサスの遊び心のあるデザインやダニエル・ド・モンモランの陶芸作品まで、この展示室では多様な現代作品をご覧いただけます。3Dプリンターを使ったジョナサン・キープによる磁器作品では、セラミックと新しいテクノロジーを結び付ける芸術的探求の一端をうかがうことができます。

リモージュ陶磁器



レベル3

当美術館は、世界でもここだけしかないリモージュ陶磁器のコレクションを所有しており、18世紀から現代に至るまでの歴史を解説しています。天頂から射し込む光に包まれた超コンテンツポラリーなフォルムをもつウィンドウが、この貴重なこのコレクションに、幻想的な宝石箱の役目を与えています。

ガラス

初期に使われた装飾を展示する部屋では、ガラスの歴史を築いたテクニックの変遷を知ることができます。古代の鑄込ガラス、16世紀から17世紀にかけてのヨーロッパで流行した「ヴェネチアン風」ガラス、クリスタル、エッチングガラス等が紹介されています。

リモージュ陶磁器

18世紀～19世紀

最初の部屋では、最初の製陶所が作られた1771年から、磁器産業のピークを迎えた19世紀後半までのリモージュ陶磁器の歴史の大きな流れを解説しています。順番に傑作を見ながら、製陶所を紹介しています。特別サロンに展示されているテーブル装飾一式「グラン・ド・リ」は、19世紀のリモージュ焼き技術の集大成と言える代表作です。

リモージュ陶磁器

20世紀～21世紀

2つめの展示室では、アール・ヌーヴォーやアール・デコといった、20世紀初頭以来、リモージュのスタイルをリードしてきたデザインの潮流が紹介されています。また、国際的なアーティストの作品（アルマン、ジェフ・クーンズ）、ファッションの世界とのコラボレーション（ジャン＝シャルル・ド・カステルバジャック、エルメス）、料理界での新しい使い方を示す作品（ノン・サン・レゾン）、またはテーブルアートの枠を超えた実験的なオブジェ（CRAFT）など、リモージュの磁器が現在もなお力強い表現を続けていることを伝えるため、現代の創作品にも広いスペースをあてています。

アドリアン・デュブーシエ国立博物館は、フランスの陶磁器の中心地であるリモージュにあります。

全面的に改築された館内には、世界で最も充実した磁器コレクションが展示されています。

また、陶磁器の歴史の主な時代を代表する作品の数々も紹介されています。見学コースは、時代の流れに沿って古代から始まり、世界の文明・文化を巡り現代の創作品に至ります。

製造技術を説明するスペースも設けられ、展示された名品を通して誰もがその傑出した技量を鑑賞することができます。

アドリアン・デュブーシエ国立博物館とその素晴らしいコレクションは、セラミックアートに世界的な威信を与え、リモージュという街の名声を築いた優れた技術の持つ価値をさらに高める上で、大きな役割を果たしています。

ご利用案内

アドリアン・デュブーシエ国立博物館

セーヴル及びリモージュ陶芸都市

8^{bis}, place Winston Churchill

87000 Limoges

電話 : +33 (0)5 55 33 08 50

www.musee-adriendubouche.fr

開館時間

火曜日を除く毎日、10時～12時30分、

14時～17時45分。

12月25日と1月1日は休館します。

博物館はお体の不自由な方のアクセスに対応しています

アクセス:

市内バスで: 6番、8番

車で: 博物館前に600台の有料屋外駐車場、デーン広場とラ・モット広場には有料地下駐車場があります。

図書館・資料センター

資料センターには、当館所蔵の作品やアーティスト、さらに製陶所に関する貴重な資料が取られています。

入館無料 - 要予約

売店

書店・ブティックでは、陶磁器・ガラス工芸品等の書籍、絵はがき、リモージュ磁器のテーブルウェア、宝石等を販売しています。

電話: +33 (0)5 55 33 08 55